

# 持続可能な医療体制へ

健康福祉課健康係  25 1185

桃取診療所  
池田智哉医師

神島診療所  
小泉圭吾醫師

坂手診療所  
菅原茂医師

菅島診療所  
中森良樹醫師

聞き手：健康福祉課健康係長（へき地診療担当）  
中村孝之

中村孝之

人口減少・少子高齢化が進む中、べき地医療も今の時代に合った医療提供体制を考えていく必要があります。離島の市立診療所の所長である医師4人に集まつていただき、持続可能な医療体制についてご意見を伺いました。



菅原 医師 坂手診療所に赴任した平成24年には島の人口は450人でしたが、今では250人。独居のかたが多く、高齢化率も70%以上です。平地では自転車なども利用できますが、診療所までの階段は徒歩となります。数百メートルで歩くのが困難なのが増えてきました。自宅への

ことが多く、若い夫婦が減少し、子どもも減っています。独居世帯が増えており、孤独死への対応は今後の課題だと思います。自宅での介護が難しく、施設入所で島を出ていくかたも増えています。認知症の相談が増加していますし、以前は自分で歩いて来院していたのに一人で受診できなくなつたかたや、転倒・骨折が増える中、ケガや入院をきっかけに自宅にひきこもつてしまつたも見られます。



中森医師  
若い年代  
外・県外

—鳥羽市の高齢化率は今年の6月末で41・2%で、離島で

定期的な訪問診療や往診を行っています。



—全国的に、地方で勤務する医師の数も減つてきています。将来を見据え、一人の医師が広範囲をカバーし、高齢者を支える工夫が必要ですね。

そこで答志町にオンライン診療室を開設しました。高血圧など慢性疾患のかたには、オンライン診療でも対面診療と遜色ない診察が可能です。桃取診療所から顔なじみの看護師が出向きますし、画面を通じて診察するのはもちろん僕です。当院かかりつけの答志町のかたには診療所で行つてるものと同じ診療をオンライン診療室で行つてします。

## 鳥羽市におけるオンライン診療導入の経緯

年度	機器等の整備	成果
令和2年度	クラウド型 電子カルテの導入 遠隔診療システムの導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>市立診療所医師がどこからでもカルテを利用できるようになる</li> <li>看護師がビデオ通話を使って離れた場所にいる医師とつなぎ、専用カメラなどを使って遠隔診療することが可能に</li> </ul> <p>→市立診療所の複数の医師で複数地域を見守る「グループ診療」体制を確立</p>
令和4年度	機器整備地区の追加 遠隔診療機器の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>答志町に「オンライン診療室」を開設 (答志・和具地区から桃取診療所まで移動する負担を軽減することを目的とする)</li> <li>より精度の高い機器を導入し、オンライン診療の質を向上</li> <li>本土側の薬局薬剤師とつないでオンライン服薬指導を開始</li> </ul>
令和5年度 ～ 令和7年度	医療 MaaS (マース) 車両の配備	<ul style="list-style-type: none"> <li>鏡浦地区で専用車両を使った実証事業を展開 今浦・本浦・石鏡地区の症状が落ち着いている患者さんに対して、オンライン診療を行う日と対面診療の機会を組み合わせながら診療を実施</li> </ul> <p><b>【対面診療が必要な場合には診療所まで移送を行う】</b></p> <p>遠くまでは外出しづらい患者さんを車両で鏡浦地区内の診療所まで移送 (または、医師・看護師の往診、訪問診療に車両を活用)</p> <p><b>【各地区へ出向いた車内でオンライン診療を行う】</b></p> <p>カメラなどの機器を車両に積み込み、車内で看護師が血圧などを測定すると、そのデータが診療所にいる医師のパソコンに表示される。医師はそれを見ながら、ビデオ通話を使って患者さんの診察を行う</p> <p>→オンライン診療機器を積んだ車が地区に出向く形を交えることで、外出が難しい患者さんの移動の負担を軽減</p> <p>→例えば、石鏡のかたも本浦の診療所の開設時間にオンライン診療を受けられる、移送支援で通院できるなど、鏡浦地区全体で診療を受けられる機会が増加</p>

**池田医師** 令和4年12月から始めて、これまで実人数15人程度のかたが利用されました。注射など、直接の診療が必要なかたもいるため、すべての患者さんに…といつ訳にはいきませんが、体験した9割近くのかたが継続的に利用されています。

確かに最初はオンラインという言葉に不安を覚えるかたもいますが、機械の操作はスタッフが行いますし、勝手がわかるとすぐに受け入れてもらえていきます。オンライン診療室の利用者でも定期採血などの時には桃取診療所で対面診療を行うのですが、「次はオンラインでお願いしますね」と言われるくらいです（笑）。

オンライン診療室に薬は置いていません。本土側で協力いただける薬局様と連携してオンライン服薬指導を行い、薬を宅配や定期船などで送つてもらいます。当曰か遅くとも2日後には



## オンライン診療室

薬が自宅まで届きます。調剤の待ち時間がなく、通院帰りの荷物にならないため患者さんの負担も減らせて います。この仕組みだと診療所にはない薬も出せるので、こうした薬が必要な場合は答志町に限らず桃取町の方たちにも利用してもらっています。

オンライン診療は患者さんが移動せずに済むのが大きな利点ですね。ほかにもありますか。

イルス感染症の濃厚接触者になつた時、菅島に行けなくてでも遠隔で診療ができます。機器を使って島の患者さんの顔をしながら話をし、いつもの薬を処方できました。

小島医師 悪天候などで定期船  
が欠航した場合、前は神島に行  
けず、休診せざるを得ませんで  
した。今は看護師の支援を得て、  
自分がその場  
にいなくても、  
遠隔で診療で  
きます。

—鏡浦地区には今浦、本浦、石曜それぞれ施設があります（目曜は菅原医師と小泉医師が診察、ほかは三重大学医師が担当）。医師の施設間移動などのため、診療時間が短いのが課題です。

そこで令和5年12月から医療と車両を掛け合わせた取り組みを始めました。

す。最寄り以外の市立診療所で膝や腰の注射を受ける患者さんもいて、今まででは診療時間や移動の問題で受診しづらかったたから好評をいただいている。

へき地・離島における医療アクセスの障壁は「距離」です。地域で通院を支援してくれた青壮年層が減少しており、今後高齢者の通院が難しくなる可能性があります。オンライン診療や医療MaaS車両の活用は患者さんと医療関係者の間にある物理的な「距離」を縮め、移動の負担を軽減する仕組みです。新しい技術やアイデアで、へき地・離島に住むみなさんが健康で長生きできるための支援策をこれからも考え続けていきたいと思っています。



医療 MaaS 車両が7月10日から  
市独自のデザインになりました。

新しい技術には横文字が多用されがちですが、地域のかたに親しみを持っていただけるよう、車両には鳥羽を題材とする浮世絵に着想を得た和風デザインを取り入れました。オンライン診療では、医師は離れた場所から診療を行いますが、新たな工夫を使って各地区に駆けつけるイメージを表現しています。



医療 MaaS 紹介動画



TRIMet (三重県鳥羽市へき地  
医療チーフ) インスタグラム



平沼修醫師

## 診療所トピック

市立長岡診療所の運営は  
県立志摩病院との連携など  
の面から同病院を運営する  
公益社団法人地域医療振興  
協会に指定管理委託してい  
ます。

7月1日から、大川克則  
医師に代わり平沼修医師が  
着任されました。